

Q21 辺野古・大浦湾の自然環境について教えてください。

A

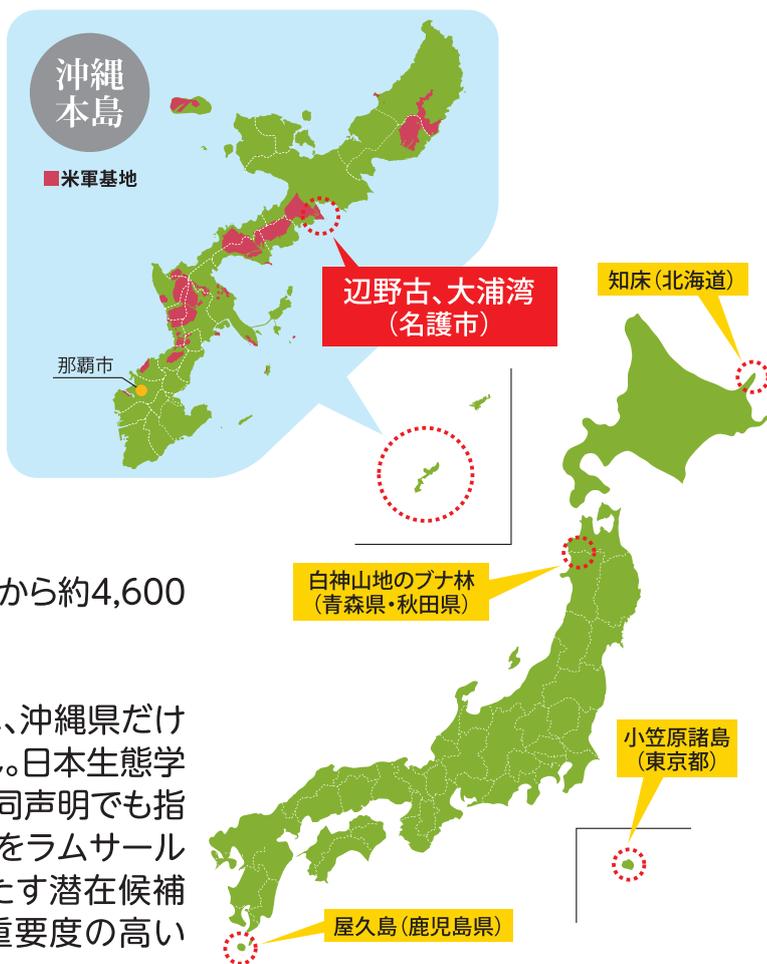
沖縄には、世界的にも貴重な亜熱帯島嶼(とうしょ)域の豊かな海と森があり、これらは私たちの誇るべき財産です。

その中でも、辺野古・大浦湾周辺の海は、特異な地形的特徴を反映し、多様な生態系が狭い水域に組み合わせる、生物多様性が極めて高い海域です。

沖縄防衛局による環境影響評価の調査でも、この海域で絶滅危惧種262種を含む5,300種以上の生物が確認されているのです。

これは、人類共通のかけがえない財産であり、将来の世代に引き継いでいくべき世界自然遺産として登録されている、知床、白神山地、小笠原諸島、屋久島でそれぞれ確認されている、約2,900から約4,600という数を上回るものです。

この地域の自然環境の重要性は、沖縄県だけが主張していることではありません。日本生態学会をはじめとした19もの学会の共同声明でも指摘されており、環境省は、この海域をラムサール条約の登録湿地の国際基準を満たす潜在候補地とし、「生物多様性の観点から重要度の高い海域」の一つとして抽出しています。



■日本の世界自然遺産登録地の生物種について

所在	名称	登録年	面積※1	生物種数※2
鹿児島県	屋久島	1993年	約10,700ha	約4,600種
青森県／秋田県	白神山地	1993年	約17,000ha	約2,900種
北海道	知床	2005年	約71,100ha	約4,200種
東京都	小笠原諸島	2011年	約7,900ha	約4,400種

※1 「日本の世界自然遺産ホームページ(環境省)」 ※2 各登録地の世界自然遺産管理計画

■辺野古・大浦湾の生物種について

所在	名称	調査範囲の面積 ※1	生物種数 ※2
沖縄県	辺野古・大浦湾	約3,600ha	5,334種

※1 沖縄防衛局が提出した願書の添付図書「環境保全に関し講じる措置を記載した図書」で示された、海域生物の調査方法をもとに、沖縄県が概算したものである。

※2 沖縄防衛局が提出した願書の添付図書「環境保全に関し講じる措置を記載した図書」で示された、海域生物の種類数をもとに、沖縄県が概算したものである。

世界的な海洋学者であるシルヴィア・アール博士が率いる米国の環境NGOミッション・ブルーにより、大浦湾とその周辺海域一帯が、希少なアオサゴ群落やジュゴンを含む数千種の生物が生息する重要な生物多様性を持つと評価され、この海域の海と生き物を、米軍の新基地建設と将来のさらなる開発から守るために疑問の声を上げることが重要であるとして、令和元年10月に「ホープスポット」として登録されました。※1

また、沖縄は現在日本で確認されている唯一のジュゴンの生息地で、世界のジュゴンの北限の生息地となっております。ジュゴンは国の天然記念物に指定されている絶滅危惧種ですが、辺野古・大浦湾は、ジュゴンの餌場である海草藻場が沖縄島周辺で最大の規模で広がる、ジュゴンの生存にとって非常に大切な場所です。

私たちは、この海域が育む命と自然がかけがえのないことを知り、この美しい海を守り、子孫へ引き継ぎたいと切に願っています。

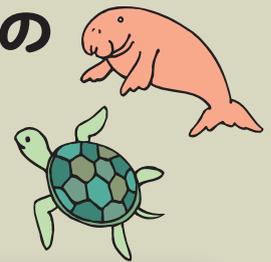
キーワード

● **ホープスポット**※1

ホープスポットとは、世界的な海洋学者シルヴィア・アール博士が立ち上げた米国のNGOミッションブルーが行っている、世界的に重要な海を登録し、海洋保護の網をかける活動のことです。

ホープスポットは、14名の海洋学者からなるホープスポット協議会において、世界に誇ることができる十分な科学的価値、文化的・歴史的・精神的価値、人間活動による影響をくつがえすことができる可能性のある海域、これから一緒に守っていこうとする地域のサポートがあると認められた場所が登録されます。

辺野古・大浦湾の 生きものたち



写真：琉球新報社提供